



2次試験 超直前ワンポイントアドバイス 第4回 財務戦略事例

2013年10月

4dan4.jp

中小企業診断士資格支援コンソーシアム

事例Ⅳ 最終チェックポイント

事例テーマのチェックポイント

業種を問わず、さまざまな事業内容が出題される。経営分析をしっかりと行うことを忘れてはならない。ただし、近年の出題傾向を考えると、スピードと正確性を持った計算力が要求される。

与件のとらえ方

文章としての与件文は短いので、その中から事例企業の問題点のポイントとなる記述をしっかりと把握する。

提示された財務情報を、時間を掛けてしっかりと確認する。収益性、流動性、CF状況を財務情報から確認した上で設問を考える。

最終チェック一次知識①

アカウンティング

財務諸表の作成

財務分析

→ 収益性・効率性 (資本)利益率、(資本)回転率

→ 流動性・財務構造 流動性、長期の資本と資金

利益計画

→ 損益分岐点分析 基本公式の理解

→ プロダクトミックス 限界利益の額または率での計画

設備投資 NPV法と経済性計算、二段階モデル

最終チェック一次知識②

ファイナンス

企業価値

- FCFによる永続価値 $FCF \div$ 加重平均資本コスト
- 負債による価値向上 負債ゼロの価値+負債の節税効果

投資理論

- 金融商品の価値 有期、永続モデルの価値計算
- ポートフォリオ 確率による加重平均と期待収益率

リスクヘッジ オプション(保険)、その他為替予約

- リスクをヘッジしなければ、為替差益・差損が発生する。

変動費と固定費を考える

科目	変動費	固定費	備考
材料費	◎		
商品仕入原価	◎		
賃金	○	◎	出来高給、残業代などは変動費
賞与		◎	
福利厚生費		◎	
その他労務費		◎	
外注加工費	◎		
電力費	◎	○	基本料金は固定費
ガス代	◎	○	基本料金は固定費
水道料	◎	○	基本料金は固定費
減価償却費		◎	
修繕費	○	◎	
工場消耗費	◎		
リース料		◎	
役員報酬		◎	
給与手当	○	◎	歩合給、残業代などは変動費
福利厚生費		◎	
配送配達費	◎	○	工場間や営業間の配送費は固定費
広告宣伝費	○	◎	販売促進用の広告は変動費
販売促進費	◎		
車両燃料費	○	◎	
旅費交通費	○	◎	
減価償却費		◎	
交際接待費		◎	
通信費		◎	
消耗品費		◎	
修繕費		◎	
租税公課		◎	
地代家賃		◎	
保険料		◎	

	製造業	卸売業・小売業・飲食店
固定費	直接労務費	販売員給与手当
	間接労務費	車両燃料費(卸売業の場合50%)
	福利厚生費	車両修理費(卸売業の場合50%)
	減価償却費	旅費交通費(販売員)
	賃借料	通信費
	保険料	広告宣伝費
	修繕費	その他販売費
	水道光熱費	役員(店主)給与手当
	旅費交通費	事務員(管理部門)給与手当
	その他製造経費	福利厚生費
	販売員給与手当	減価償却費
	通信費	交際接待費
	支払運賃	土地建物賃借料
	荷造費	保険料(卸売業の場合50%)
	消耗品費	修繕費
	広告宣伝費	水道光熱費
	交際接待費	支払利息・割引料
その他販売費	租税公課	
役員報酬	従業員教育費	
事務員(管理部門)給与手当	その他管理費	
支払利息・割引料		
従業員教育費		
租税公課		
研究開発費		
その他管理費		
変動費	直接材料費・買入部品費	売上原価
	外注費	支払運賃
	間接加工費	支払荷造費
	その他直接経費	荷造材料費
	重油等燃料費	支払保管料
	当期製品仕入原価	車両燃料費(卸売業の場合50%)
	期首製品棚卸高-期末製品棚卸高	車両修理費(卸売業の場合50%)
	酒税	保険料(卸売業の場合50%)

プロダクトミックスを考える

損益計算書(単位:万円)

	製品別や部門別等のセグメント単位				合計
	A	B	C	D	
売上高	4,000	2,000	1,500	1,000	8,500
変動費	2,800	1,400	900	500	5,600
限界利益	1,200	600	600	500	2,900
限界利益率	30.0%	30.0%	40.0%	50.0%	34.1%
個別固定費	700	500	400	300	1,900
貢献利益	500	100	200	200	1,000
共通費配賦	250	130	100	70	550
営業利益	250	▲30	100	130	450
営業利益率	6.3%	▲1.5%	6.7%	13.0%	5.3%

財務分析のロジックを考える

費用構造分析視点



資本効率分析視点

貸借対照表

総資本回転率 =

売上高

総資本

売上債権
回転率

棚卸資産
回転率

有形固定資産
回転率

現預金

売上債権

棚卸資産

その他流動資産

有形固定資産

その他固定資産

流動負債

固定負債

自己資本
(純資産)

総資本回転率が低い場合、分母である総資本を大きくしている要因を分析していく

流動性分析視点

短期の支払能力

流動比率

当座比率

手元流動性比率

インタレスト・カバレッジ・レシオ

資本安定性

自己資本比率

負債比率

資本の調達・運用の適合性

固定比率

固定長期適合率

CF計算書の基本構造を確認する

キャッシュフロー計算書間接法の構造

I. 営業活動によるキャッシュフロー

税引前当期純利益	×××
非資金支出項目の調整	×××
損益項目の調整	±×××
営業活動による資産負債の増減	±×××
小計	×××
利息及び配当金の受取額	×××
利息の支払額	－×××
・ ・ ・ ・ ・	±×××
法人税等の支払額	－×××
営業活動によるキャッシュフロー	×××

II. 投資活動によるキャッシュフロー

III. 財務活動によるキャッシュフロー

キャッシュフロー計算書直接法の構造

I. 営業活動によるキャッシュフロー

営業収入	×××
原材料又は商品の仕入支出	－×××
人件費支出	－×××
その他の営業支出	<u>－×××</u>

小計 ×××

利息及び配当金の受取額	×××
利息の支払額	－×××
・ ・ ・ ・ ・	±×××
法人税等の支払額	<u>－×××</u>

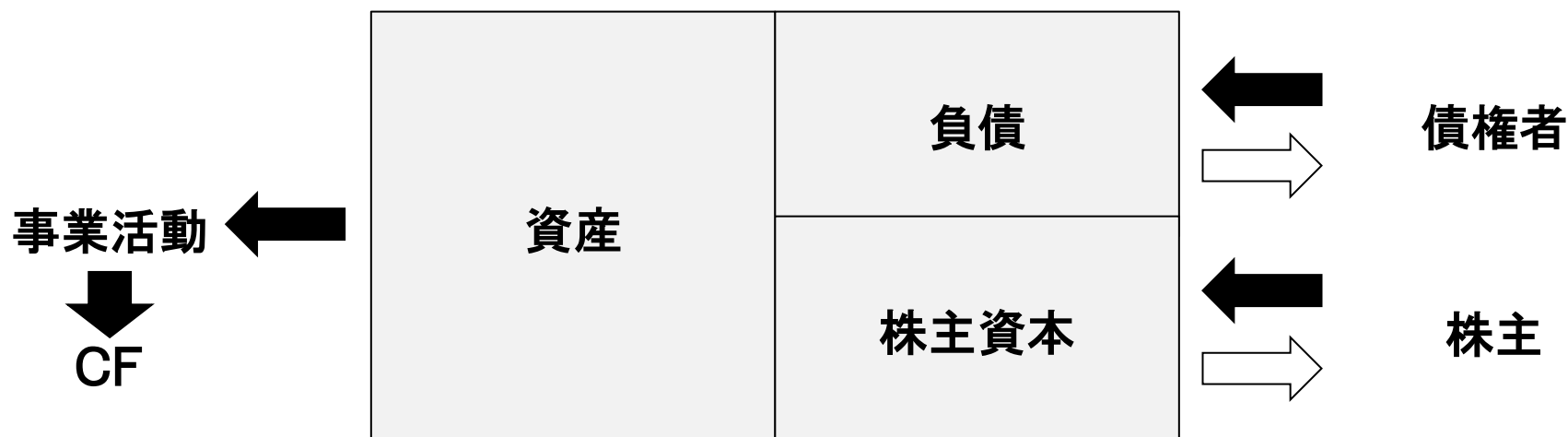
営業活動によるキャッシュフロー ×××

II. 投資活動によるキャッシュフロー

III. 財務活動によるキャッシュフロー

WACCを確認する

企業経営のために、債権者や株主から資本を調達する。
その調達コストである負債コストと株主資本コストの加重平均値を加重平均資本コストという。



$$WACC = \frac{D}{D+E} r_D(1-T) + \frac{E}{D+E} r_E$$

F C F を 確 認 す る

フリー・キャッシュ・フロー（F C F）とは、企業が自由に使うことができるキャッシュのことです。

$$F C F = N O P A T + \text{減価償却費} \pm \text{運転資本増減} - \text{更新投資}$$

$$N O P A T = \text{営業利益} \times (1 - \text{実効税率})$$

ゼロ成長モデルと一定成長モデルを確認する

